

まえがき

本書では、「包括的教育学」の立場から、社会的諸課題に関する教育現象に着目し、その歴史的意義、思想的背景、将来性などについて考察を試みた。

序章では、教育学がどのような現象を対象にして発展を遂げてきたのかを確認し、本研究が、どこに位置するものであるのか、あるいはどこに位置しようとするのかという点について言及した。

次に、具体的な考察の対象として、大きく分けて、アナーキズム、ユートピアニズム、市民大学、労働運動の4つをとりあげ、分析を試みた。

第1章では、アナーキズムと教育の関係について考察するに際し、近代日本の啓蒙的アナキストとして知られる社会運動家・思想家の石川三四郎(1876~1956)に着目した。石川が教育に関してどのような関わりをもち、理想社会の構築に向けてどのように教育を活用しようとしたのかを考察した。

アナーキズム運動は、人間の理性に大きな期待をよせることを基礎として社会づくりをしようとしている点で、きわめて教育的な社会運動と捉えることが可能である。ここではアナーキズムに関する教育学の考察が試行されたといえよう。

第2章では、ユートピア運動と教育の関係について考えた。ユートピアを実現しようという試みのうち、理想的共同体を建設することで漸次的に社会改革をしようとする流れを追った。実例

として作家・武者小路実篤（1885～1976）が始めた新しき村に着目し、知識人が先頭にたって展開されるユートピア運動の教育的意味について考えた。

第3章では、市民大学の今日的意義と各種社会的組織との連携について考えた。市民大学は生涯学習・生涯教育の波及にともなって、行政の主導のもとで日本各地につくられてきた。しかし、現今行財政改革の流れの中で、大幅な見直しを迫られている。そこで新たな運営主体として登場してきているのがNPOである。本章ではNPOによる社会教育機関の運営と市民自主運営という新たな局面を迎えた市民大学をめぐって、神奈川県川崎市で活動しているかわさき市民アカデミーをとりあげつつ考察を進めた。

第4章では、労働運動とその社会的教育波及効果について考えた。日本の労働組合の主流は企業別労働組合であるが、それとは異なる流れとして地域合同労働組合（地域合同労組）が存在する。地域合同労組は規模としては小さいが、企業別の労働組合が取り組むことができなかつた問題、すなわち非正規雇用労働者の労働条件の改善や、解雇事件への正面からの関わりといった課題に積極的に関わる点が注目される。ここでは、地域合同労組の社会的教育効果について考えた。

終章では、4つの方面を分析した結果を受けて、教育と社会改革という古くて新しい課題について考えた。

目 次

まえがき	iii
序章 教育学の学際性と包括性	3
教育学の捉えにくさ	3
教育学の系図を確認する	6
本研究の立場	11
第1章 アナーキズムと教育	15
はじめに	15
1. 異色の社会運動家石川三四郎	15
アナーキズムへの着目	15
石川三四郎という人物	17
社会的教育への関心	18
石川三四郎と教育との関わり	19
2. 石川三四郎の社会改革論と教育	24
教育を機軸とした社会運動の模索	24
社会教育の場としての「共学社」	27
自治独立の探求とその意義	30
3. 石川三四郎による社会啓発の試み	32
人文地理研究と社会改革の模索	32
東洋文化史研究への専心	34
東洋文化史研究の教育的意義	36
下からの教育の模索と今日への課題	38

おわりに	40
第2章 ユートピアと教育	45
はじめに	45
1. ユートピア運動とは何か	45
理想社会構想の具現化と教育	45
知識人の田園回帰と社会運動としての側面	46
新しき村の概要の確認	47
半農生活の試みと武者小路の位置	48
2. 社会運動としての「新しき村」	49
ユートピア運動の淵源とその精神	49
ユートピア運動と教育	51
3. 「新しき村」設立時の評価をめぐって	52
社会的反応を前提とした啓発	52
説得力のある社会運動の探求	54
4. ユートピア再考	57
今日の田園回帰現象とその困難性	57
教材としてのユートピア	58
おわりに	63
第3章 市民大学の取り組み	67
はじめに	67
1. 市民大学とNPOの登場	67
市民大学とは何か	67
模索期に入った市民大学	68
2. 市民大学の実践例	71
かわさき市民アカデミーの位置	71

かわさき市民アカデミーの周辺	73
3. NPO による事業運営とその背景	75
市民自主運営の具体的取り組み	75
残されている課題	79
4. 社会還元性と市民大学の意義	80
社会還元とは何か	80
地域学としての川崎学	82
市民大学の存在意義	84
おわりに	90
第4章 地域合同労組の可能性	93
はじめに	93
1. 地域合同労組への着目	93
労働組合をめぐる状況	93
地域合同労組誕生の背景	94
地域合同労組の特徴	100
2. 地域合同労組の存在意義	102
当たり前のことに取り組む	102
当たり前の行動に対する押さえ込み	104
石川三四郎の再登場と今日の労働運動	107
3. 地域合同労組の具体的取り組みと今後の方向性	110
東京における実践例	110
NPO と労働組合	112
教育の発生源としての地域合同労組	113
おわりに	115
終章 教育と社会改革	117

協同社会の構築という目的	117
教育学における実践と理論の乖離	119
教育学の再構築へ	120
大学への期待	122
教育学と社会改革	124
文献一覧	126
あとがき	139
初出一覧	141